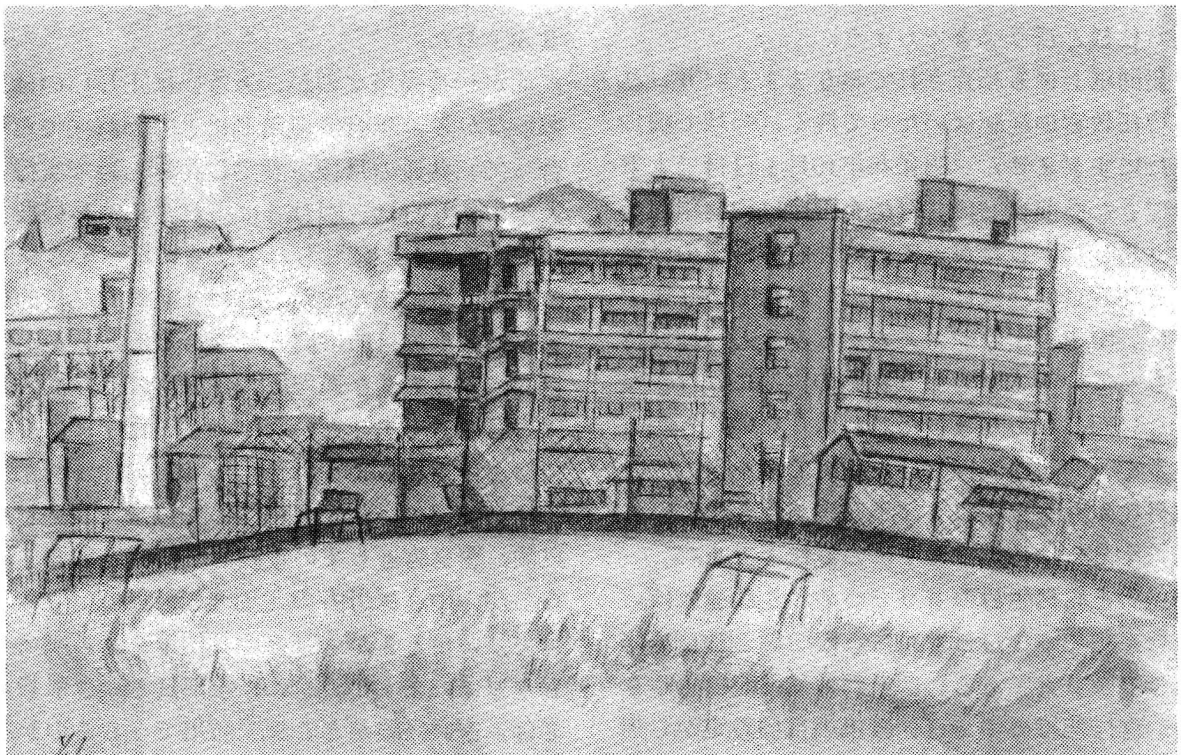


# 学園ニュース

富山大学  
No. 46

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 59 年 12 月 10 日



学内風景（その11）工学部五福新校舎遠望 池田優子

## 目次

学部長就任のご挨拶	経済学部長	瀧好英	2
新任教官紹介及びあいさつ			3
西ドイツでのこと	教養部助教授	森克徳	6
メキシコでスリに会った話	教養部助教授	梅村智恵子	7
3冊のノート——西ドイツに留学して——	教育学部中学校教員養成課程(音楽)4年次生	内田良美	9
自動二輪車の構内交通の規制について	富山大学構内交通対策委員会委員長	吉田和夫	10
昭和59年度富山大学公開講座			12
学部・学生部・保健管理センターだより			13

## 学部長就任のご挨拶

経済学部長 瀧 好 英

去る9月30日付で経済学部長に就任いたしました。よろしくご協力ご支援ご指導のほどをお願いいたします。

9月30日付とは、いかにも中途半端な時期に学部長の交替が行なわれるものだといぶかしい感じもしましたが、聞くところによると、かつて学園紛争の頃、任期の途中で辞任された方があって、それ以来年度途中の学部長交替が行なわれているということのようで、止むを得ぬ仕儀と言うべきでしょう。

すでに新聞紙上にも紹介されておりますとおり、私の、大学専任教官の経歴はいたって浅く、今秋で満13年を迎えたにすぎません。昭和46年10月1日付で本学へ赴任してきた直前までは、経済企画庁に約24年間勤務して参りました。したがって、総理府事務官の経験に比べ、文部教官の経験は遙かに短いわけがあります。それだけに、中央官庁のシステムからみると一種独特な性格をもっている大学という機関の実態に、なかなか馴染めない感じもありました。わからないことがあまりにも多く、問題の表面だけを捕えて物を言っていると、意外な誤りを犯すような不安感が付きまとい、いまだに、十分には払拭できずにいる仕末です。

事務官生活と教官生活のもう一つの大きな違いは、明確な命令系統でつながっている官庁組織と、自治体制の確立している大学あるいは学部の運営面に感じられました。官庁組織の中では、政策の目標設定から実施細目に至る過程が、上層から順次降下してきて、下部に至るほど実際の具体的な問題が扱われる傾向にあります。つまり、職制の各段階にはそれぞれの土俵が

決められていて、その土俵の中で論議し検討することになりますから、会議の進行もいたって実際的に行なわれます。一方、大学においては、ごく特別な文部行政上の問題は別として、日常的な仕事は、学内ないし学部内で意思決定を行ないかつそれを自ら実施していくわけでありますので、長年事務官の職制に馴れてきた者にとっては、土俵のないところで論議をしているような感じが強く、会議の進行にもなかなか馴染めませんでした。

何が一番妥当なのか、あるいは正しいのは何かを思索しながら、年令や職階制にとらわれずに意見を出し合って、共通の目標を設定し、みんなで実行していく大学のあり方は、馴れるにつれて素晴らしい要素が含まれていることが感じられるようになってきました。そのうえ、「研究と教育」という絶対的な目的があって、すべてはその目的に向う道であること、しかも、その目的に向って進む過程は、各教官の特性に応じて自分に固有の道を歩むという体制も、官庁にはみられない特徴と言えましょう。

経済学部の一教官に就任して以来、長い官庁勤務の経験、事務官としての手腕を「研究と教育」に活かすことが、中途採用者のとるべき最良の策ではないかと考えついたときから、その具体策を講じ続けてきたつもりではいますが、新たに学部長という職責が加わっては、古い経験がどこまで活用できるのか不安な気持を禁じ得ません。各位の温いご指導を重ねてお願いする次第です。



## ◇◇ 新 任 教 官 ◇◇

◎高橋春成 講 師 (教育学部) 59.7.16  
昭 56.3 広島大学大学院文学研究科博士課程後期  
単位取得退学  
担当：地理学

◎釜谷武志 講 師 (教養部) 59.10.1  
昭 57.4 京都大学大学院文学研究科博士後期課程  
退学  
担当：中国語

◎堀田朋基 助 手 (教育学部) 59.7.16  
昭 57.3 順天堂大学大学院体育研究科修士課程修  
了  
担当：体育実技

◎南 龍久 教 授 (経営短期大学部) 59.10.1  
昭 43.3 立命館大学大学院経営学研究科修士課程  
修了  
担当：経営管理

◎吉田尚弘 助 手 (理学部) 59.5.1  
昭 59.3 東京工業大学大学院理工学研究科博士課  
程修了  
担当：陸水学

## 新 任 の あ い さ つ

教育学部講師 高 橋 春 成



この7月に広島大学より転勤してまいりました。専攻は地理学で、特に農牧林業、人類・民族・社会、生物、地誌などに興味をもっております。出生地は滋賀県守山市で、周囲には近江盆地の稲作地帯がひろがり、また、近くには琵琶湖の東西を連

結する琵琶湖大橋があります。そこで、高校を終えるまですごしました。その後は、広島で十数年間にわたる学生ならびに助手生活を送りました。

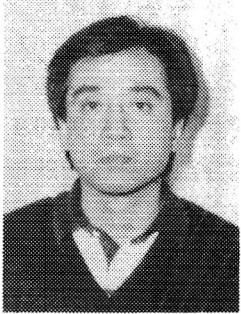
学生時代からフィールドに出るのが好きで、山・海・川問わず踏査することを楽しみにしてまいりました。

もっぱら国内が中心でありましたが、2年前には南インドの山間部に2ヶ月余り滞在する機会を得、国内とはまた異なった経験を持つことができました。今後も機会があれば、国内・国外を問わずにいろいろな経験を積み重ねることができればと願っております。

富山に転勤してまいりましてから約3ヶ月が経過いたしました。その間、引越しの後始末等でまだ富山県内で訪れたところは数えるほどですが、これから各地を訪問することを楽しみにしております。間もなく滋賀や広島では味わえない雪の量や山の深さに富山を感じることをと思いますが、新しい地で、皆様の暖かいご指導のもとで最善をつくしたいと思っております。どうか宜しくお願いいたします。

## 新任のあいさつ

教育学部助手 堀田 朋基



自己紹介風に書き連ねて、挨拶に代えさせていただきます。

本名は、ホリタトモキ。生年月日は、昭和31年12月26日で、当年にとって27歳の独身男子であります。出身地は、散居村で世界的に有名な砺波です。スキーの準指導員だった父親の影響もあ

って、稚い頃からスキーを始め、今ではスキーが自分の専門種目となってしまいました。大学もスキーをやりたい一心で、新潟大学教育学部高田分校に進み、雪のある限り（そして金の続く限り）滑りまくっていました。高田は豪雪で知らされていますが、雪解け後の桜も非常に素晴らしく、これは一見の価値があると思います。大学卒業後は、順天堂大学大学院体育学研究科

（体力学専攻）に進み、ヒトの筋肉の電気生理学的及び組織化学的特性について研究を進めました。大学院修了後も研究室に研究生として残り、実習の補助等を務め、今年7月16日付で本学教育学部保健体育科に助手として赴任しました。

趣味・特技は、特にはありません（どちらかと言うと、趣味がそのまま専門になっていった感が強い）。音楽はもっぱらJazzを好み、また大のコーヒー党でもあります。

富山を離れて約10年経ちましたが、今回再び生まれ故郷に帰ってこれたのも何かの縁かと思えます。今後は、より良い教員を育成するように一層の努力をするつもりではありますが、何分まだ経験も浅いので、皆様の御指導の程、よろしくお願い致します。

## 初めての冬を迎えて

理学部助手 吉田 尚弘



すでに半年が過ぎました。季節の移り変わりを早く感ずるのは、どうやら教官としての学園生活に慣れていないためばかりでは、ないようです。山があり川があり、そして海がある土地に住むことが、あずかって力あると思われれます。

魚のうまさも特筆すべきです。最近、少し体重が増えましたが、これは魚ばかり食えることが関っているのではないかと考えています。これには、次のような学問的裏付けもあるのです。私共の分野で最近、「食物連鎖に伴なって重窒素、重炭素、重水素が濃縮する」ということが、知られるようになりました。つまりプランクトン、それを食べる小魚、それを食べる魚という具合に重い同位体が濃縮してゆくわけです。

そして、さらにそれを食べる人間も例外ではありません。即ち、「魚ばかり食えると重くなる」というわけです。同位体のバランスから考えても、「もっと野菜-植物は軽い同位体に富んでいる-を食べにゃあかんヨ」というのは、どうも真理のようです。

大学を出て一年余り、三菱化成生命科学研究所に居りました。故・江上不二夫氏の理想をそのままに広く生命科学を目指す、大学よりさらに自由な研究所でした。私の専攻まで含むのですから、氏の専門を超えた好奇心と構築力には感服したものでした。

Seniorな研究者にもまれた環究から一転して、今また若い学友諸君に囲まれる環境にあるのは不思議な気がします。地球化学にとどまらず、化学を基礎にして、生態学、考古学、地質、物質などに、少なくとも好奇心をもって、広く地球化学を目指したいと存じます。よろしくご指導の程、お願い申し上げます。

# 雪について

教養部講師 釜谷 武志



雪が降ってゐる、  
とほくを。  
雪が降ってゐる、  
とほくを。  
捨てられた羊かなんそのやうに  
とほくを。

関西で生まれ、育って、関西から離れたことのない私にとって、

富山という街は、うまいといわれる魚よりも、また市内から眺められるという立山連峰よりも、冬の雪に対する興味の方がはるかに強いものでした。それは、しかし、冒頭に引いた中原中也の詩などから勝手に自分でつくりあげた種類のものでしかないことは、実際富山の人の話を聞いてすぐに明らかになってきました。軒先の雪おろしをしないと家がつぶれるとか、一晩で数十センチも積もったとか、聞くだにおそろしい話です。私は今年の冬をはたして生きのびることができるのでしょうか。

関西から離れたことのない私が、二年ほど中国に、しかも初めの一年は東北部（旧満州）にいました。十二月になると運動場一面にホースで水をまき、まいた後からすぐ凍って、自然の屋外スケートリングに早変わりです。寄宿舎は二重窓ですが、外側の窓は冬の間はずっと凍ったままで自然の氷の模様がきれいです。しかし、内側の窓のさらに部屋よりの暖かいところに置いたコップの水が、朝になると凍って中央が盛りあがっているのには、驚きました。そんな厳冬のさなかに、友人と二人してハルピンへ出かけました。緯度で比べると、稚内より少し北、宗谷海峡のあたりです。気温は零下三十二度、綿入れの上衣とズボンに、耳あ

てのついた大きな帽子、さらに綿入れの靴、マフラー、マスクとおよそ考えられる限りの防寒対策を施していったのですが、一面に結氷した幅一キロほどの松花江を歩いて対岸にたどりつく頃には、両の頬にはカミソリで切られたような鋭い痛みが走り、マスクのすきまから昇っていった息は白い水蒸気となって睫毛に触れ、そこで凍ってしまいまばたきするのも重くなりました。帰ってホテルの暖かい部屋に入ると、五十度近い気温差のせい、めまいがして、身体全体に脱力感が襲ってきました。

これが、おそらく私の体験した中で最も寒い冬でしょうが、大陸性気候に起因するのか、中国ではそれほど積雪はないようです。道路に少し降り積もった雪が凍ってアイスパーン状になることはあっても、数十センチも積もることは、少なくとも平地ではあまりないでしょう。したがって、その意味でも、初めて迎える富山の冬は、いや雪は、恐ろしいような、しかし待ちどおしいような、ちょっと複雑な、そんなこわいもの見たさに似た気持ちに私を駆りたてます。さて、あと数ヶ月後、私は雪に埋もれているのでしょうか、それとも

……それから、  
日が暮れかかる、  
……それから、  
喇叭がきこえる。  
……それから、  
雪が降ってゐる、  
なほも。

と、口ずさんでいるのでしょうか。

( ' 84. 10. 26 )

## 新任にあたって

経営短期大学部教授 南 龍久



くっきりと浮かび上がった雪化粧の立山連峰の雄大な景観を眺めながらバスで大学へ通っています。つい先頃まで福岡で暮らし、ここ富山へ来てまだ1ヶ月余りしか経過していないのに、

かような自然環境の相異にはただ驚嘆するばかりです。呉羽にかまえた小さな家が家のベランダからの景観も、かくて素晴らしいかぎりです。

ところで、私の前任の大学はいわゆるマンモス私大であって、そこで15年半という「長い」期間を過ごしてきました。ここ富山大学経営短期大学部へ赴任し、

いま現在私がでくわし、経験している事柄の多くはこれまで遭遇することのなかった、いわば未経験で未知のものばかりでありまして、いささか勝手が違うというのが実感です。したがって、自然環境の面ばかりでなく、この面の相異についても大いに驚嘆している次第です。

しかし、かように私が現在いかに多くの未経験・未知のものに遭遇していようと、あるいはここにおいて今後いかなる難題に直面しようとも、経営学の研究と教育に携わり、自己の研究成果を教育の現場で生かすべく努力することが私の義務であるとの立場から処してゆきたいと考えております。よろしくご教示のほどをお願いいたします。

## 西ドイツでのこと

教養部助教授 森 克徳

この夏、西ドイツのカールスルーエで第17回低温物理学国際会議（LT-17）が開かれました。LT-17に登録された参加者数は1,049名ですが主催国である西ドイツを除くとやはりアメリカが断然多く263名、次いで日本の72名となっています。LT-17の主な研究テーマは量子液体と量子固体、超伝導、低温における固体の物性および低温技術とその応用に関するものです。今回の1つのトピックスは金属の水素化による超伝導出現が急遽取り上げられシンポジウムが持たれたことです。これはたとえばパラジウムに水素50%近く含ませますとかなり高い臨界温度（ $T_c \sim 8\text{K}$ ）をもつ超伝導が出現するというものです。最近、パラジウムばかりでなくいろんな金属の水素化物の実験がされるようになってきて超伝導を示すものも発見されており今後の発展がおおいに期待される分野です。

LT-17に引き続いて同じく西ドイツのブラウンシュバイクで不純物金属の伝導現象における局在と相互作用に関する会議が開かれました。これはLT-17の本会議では十分に議論を尽せなかったところを十分に時間をかけて明らかにしようというもので物理の話ばかりでなく実験における技術的なことも議論されまし

た。この長い名称の会議にも少し簡単に説明を加えますと一般に金属の電気抵抗は温度が低くなるに従って減少し続けますが、 $T=0\text{K}$  近くになってきますと不純物や欠陥の量まで決まるある一定の値に収束すると思われていました。ところが超低温（ $\text{mK} \sim \mu\text{K}$ ）での測定が可能になって温度範囲を広げて実験してみますとある場合には不純物や欠陥は電子を局在させて金属を絶縁体に変えてしまう可能性がでてきたのです（電気抵抗が低温で増加し始める前駆的現象が見い出されました）。この可能性はアンダーソンという人によって指摘されていきましたのでアンダーソン局在と言われています。このアンダーソン局在の研究はこの2～3年の間に急速に発展し、今回の会議はその発展の成果のまとめと今後の問題を提起するものとして開かれたものです。アンダーソン局在は超伝導とも係わっていますその物理的解明にはたいへん興味を持たれているのです。

この二つの会議は日曜日をはさんでそれぞれ6日間あり少々長くて飽きが出るように思われました。そのようなことを配慮して1日の会議が終ると懇親会や音楽会、バーベキューパーティ、日曜日にはエクスカージ

ンと変化がつけられていました。

さて、この2週間は会議でほとんど拘束されましたのでドイツに関する見聞は少いし、狭いのですがエクスカーション等で訪れたドイツの町の印象を少し述べます。訪れた町はカールスルーエ、ハイデルベルク、ブラウンシュバイク、ゴスラル、ツエレ、フランクフルト、マインツ、コブレンツです。だいたいどの町も教会を中心としたマルクト広場という所がありそこに通ずるいくつかの通りは商店街で賑わい歩行者天国になっています。そしてこの広場では朝市なども開かれます。家並みは中世の古い木骨組家屋が含まれておりまわりもそれに合せて骨組の家が建てられ並んでいます。人並の少なくなった所を1人で歩いていますと絵や映画などで見たような中世の昔にふっと落ち込んだ錯覚にさえとられます。くすんだ渋みのある美しさとそこに落着いて住いする人達をみて何か自分に欠けているものがあるような感じがしました。日本も歴史のある国ですが町を歩いていてふっと昔の日本にいると錯覚に陥ったことはまだ私にはありません。もちろん、お城とか神社とかお寺その他いろいろ古い物がありよく保存されていてその中に入ると昔を偲ばれることはありましたが。ドイツに限らずヨーロッパ諸国は古い物を日常生活の中に取り入れて保存し、まわりもそれに合わせて調和のとれた環境を作ろうと努力しているよう

です。今の日本では古い物はどんどん壊して新しい物をどんどん造っていく風潮が強いように思われます。田舎に行っても昔の家は少なくなり近代的な家がどんどん建っていますし、自動車を見てもその感がします。3~4年たつと新車に乗換えるのでいつも新しくその上よく手入れをしますからピカピカしています。私はアメリカとドイツを見たのですがピカピカした車が多く走っているようには思われませんでした。むしろ、ボディがへこんだ車、ドアの窓ガラスが壊れてビニールをはった車、古くて大丈夫かなと思われる車を時々見かけたものです。しかし、これは家が貧しいからということでは決してありません。車を磨いてドライブを楽しむというような余暇と労力をもっと別の楽しみに使っているということです。ところが日本に帰ってみると多くの車はピカピカしていて新車と思われるような車も多いではありませんか。汚れた車はあまり見られません。日本はすごいと思ったものでした。私も古い物は壊し新しい物をどんどん取入れ建設していくのはきれいで、合理的で悪くはないと思っていたのですが、今度ドイツに行って見て歴史的に古い物には重厚で渋みのある燻し銀のような美しさが一杯ありそれを理解して日常生活の中に取り入れ保存している人達のいることを直に知って考えさせられてしまったのでした。

## メキシコでスリに出会った話

教養部助教授 梅村 智恵子

この9月、国際心理学会に出席するためにメキシコのアカプルコを訪れた。メキシコと言えばテキーラ（竜舌蘭の一種からとる蒸留酒）と“アスタ・マニャーナ”（また、あしたがあるさ）の国、そしてアカプルコと言えば有名リゾート地で、プレスリー主演の映画「アカプルコの海」を思い出す程度の未知の国である。勤勉な日本人にはイライラするほどの時間感覚、そしてスリやかっぱらいが多く、生水を飲むと必ず激しい下痢の洗礼を受けることなど、人づてには聞いてはいたが、学会の準備に追われ、メキシコのこととはほとんど何も知らないままに出発してしまった。

もちろん、機内では受験勉強よろしく、持参のガイドブックを読み、辞書と首っ引きでカタコトのスペイン語の坎ニングペーパーを作ったりしたが、しょせ

ん付け焼き刃の知識は気休め同然、そのお陰といってよいのか、変な先入観に汚染されずに見聞できたことは幸いであった。数日の「旅の人」に何がわかるかと言ってしまうえばそれまでのことだが、印象に残った出来事をひとくさり、綴ってみよう。

メキシコは1848年頃までに、今のカルフォルニア州、ニューメキシコ州、テキサス州の領土をアメリカに奪われてしまったが、それでも面積は日本の約5倍、メキシコシティにある「三大広場」に象徴されるように、古代遺跡とスペイン植民地時代の名残り現代の生活が奇妙に調和して存在する国でもある。街行く人々はなんとなく陽気で物見高く、レストランはいつも深夜まで大賑わいである。それでいて、朝の7時過ぎには働きに出かける人達がバスに鈴なりになって通り過ぎ



る。ナポレオン並みの睡眠時間かと感心していたら、大都会では少なくはなったが、午後1時から4時頃まで店を閉じて昼寝をする習慣がいまだに残っているらしい。

万事大まかでアスタ・マニャーナの国らしく、まず街に出て驚くことはほとんどの車がでこぼこの傷だらけで、日本なら、さしずめスクラップ行きのような代物が黒い排気ガスを吐きながら走っていることである。私の乗ったバスもフロントガラスが割れて半分なかったり、ひびや大きな穴があいていたりした。メキシコシティでは旅行会社の人から、日本人はよくスリの被害にあうので市内バスは乗らないようにと言われたが、バスはタクシーに比べてびっくりするほど安く（8円から18円）、もっぱらバスを利用した。

ところが、案の定、そのバスの中でスリに出会ってしまったのだ。私は座っていたが、横の女性のハンドバックに目をやると、バックの中に褐色の手がのびて何やらさがしているではないか！「あっスリだ」と思った瞬間、その女性に思わず、日本語で「モシモシ」と声をかけ、ハンドバックを指差していた。彼女にはこっと笑ってから、うしろのスリをジロッと見ていたが、スリは別にあわてた様子もなく、私達と一緒に終点で降りて人混みの中をゆっくりと消えて行った。スリも周囲の人の反応もおだやかなので、さてはスリが、多くてメキシコ人は“スリ慣れ”がしているのかと思ったが、後日、現地の日本人が語るところによると、メキシコでは物は盗むのではなく「持てる者」から「持たぬ者」がいただくのであり、取られた者も「施し」をしたと考えて、いちいち盗難届けは出さないそうである（もっとも届けても出てこないのが通例）。参詣人で賑わう有名な聖地、グッダルーペ寺院は、盗んでは懺悔し、また盗みに出かける泥棒達が集まってくる所でもあるそうだ。話半分としても、スリの居そうな所では施し程度の現金しか持ち歩かない現地の人から見れば、大金をとられて青くなっている日本人旅行者はさぞかし無用心でお人好しに見えることだろう。

「施し」と言えば、公衆電話で20セントボ硬貨（これでしか公衆電話はかけられない、約26銭）がなくて困っていたところ、通りがかりの人が黙って1～2枚

渡してくれた経験が2回程あった。これは大金を恵まれた時のようにうれしく、さわやかな贈り物として今でも心に残るひとこまである。

泥棒の話ではないが、メキシコのタクシーはメーターがなく、乗る前に値段を交渉しないと降りる際に法外な金額を要求されることがある。アカプルコのホテルから、朝早く（4時半頃）一人でタクシーに乗った時の話である。なにげなく開いたドアから乗り込んだが、走り出して気がついたことは、私が座ったのは助手席で、パスポートや財布の入った荷物は後席に置かれてしまっていた。空港までは小一時間、途中は山道続きで、あたりはまだ真っ暗だ。雲助タクシーの噂も聞かないではないので、何も手にせず、うっかり助手席に座ったことを後悔したが、後の祭である。若い運転手は屈託なくスペイン訛りの英語で陽気に話しかける。何故子供が居ないのかとしきりにきいてくる。彼の頭の中では未婚と既婚と子供の有無はあまり脈絡がないらしい。多少あっけにとられたが、汗だくで話の応待をしているうちに無事に到着。それ以降、1人の時は助手席に乗らないように気をつけたが、最近、読んだ本（「メキシコ美術紀行」加藤薫 新潮社 1984）の一節に次のようなくだりがあった。

「メキシコにはメキシコ流のタクシーの乗り方がある。……もし1人で乗るなら助手席を選ぶべきだ。要するにサービスを提供しているのは運転手で、後席でふんぞりかえられるのは気に入らないのである。…値段交渉の未……助手席に座れば数分もたたないうちに旧知の友人のような会話が始まる」「メキシコは保守的なカトリックの国としてモラル観や結婚観には厳しいものがある。にかかわらず、子供を持つ既婚者総数は約600万人に対して（それ以外の）子供を持つ女性は約250万人もいる。」

助手席に座ったことも、彼の話もごく常識的なことだったらしい。

戦後の混乱と闇市を見て育った私にはメキシコの喧噪と雑踏は郷愁を誘い、日本人が忘れていたもう一つの生き方を見せてくれた感じがする。もう一度訪れた国、それはメキシコである。



### 3冊のノート —西ドイツに留学して—

教育学部中学校教員養成課程(音楽)4年次生 内田良美

昨年九月から11ヶ月間、私は西ドイツのロイトリンゲンという町で暮らし、ここのロイトリンゲン教育大学で音楽を専攻しました。

一度、このロイトリンゲンから“ドイツでの人との出会い”について報告させていただいたのですが、(学園ニュース№44)、2ヶ月前に、私はその“ドイツで出会った人達”と別れ、富山に帰って参りました。時々、その人達の夢を見ることがあるのですが、そういった時、ドイツでの11ヶ月間がすべて夢の中の出来事だったかのように思えてくるのです。本当に私は11ヶ月間もドイツにいたのだろうかといった気持ちです。しかし、今、私の手元にはドイツから持ち帰った3冊のノートがあります。このノートを開き、読み返すと、ドイツで経験したさまざまなことが、昨日のこのように甦ってくるのです。

その1冊は、ドイツの何人かの友達が、別れに際して私のためにそれぞれ言葉や絵を書いてくれたノートです。その中のある一つの文を紹介します。『こんな諺がある—森があったとする。どのような森なのかを本当に知りたいなら、一度はその森の中に自分で行ってみなければならない。—良美はドイツでドイツの言葉や音楽を多く学んだだろう。そしてもう一つ、人間についても多くのことを学んだに違いない。それは、自分から人々の中に積極的に入っていったからこそのことなんだ。日本に帰っても、このことは続けていて欲しい』。私の住んでいた学生寮には、13ヶ国以上の人達が住んでおり、私はここで色々な国の人達と友達になりました。そして彼らとの付き合いの中で私は彼らの考え方に戸惑ったり、優しさに感激したりしました。今思えばそういったことを通して、友達が私に書いてくれたように、私は人間について色々なことを学んでいたのです。友達の心のこもった言葉や絵で綴られているこのノートは、私にとってはかけがえのない物です。

それから2冊めのノート。これは大学の講義や実技の授業で苦勞をしながら書いたノートです。初めの頃のぎこちない筆記体の文字や、単語の羅列で意味の通らない文を見ると苦笑してしまいます。ところで、音楽史や音楽分析の講義では、毎時間、講義内容に即した数多くのレコードを聴き、資料として昔の楽譜を見せていただいたり、またそれがピアノの楽譜であれば

教授が実際に演奏して下さったりもしました。当然のこととは言っても、音楽関係の資料や参考文献が豊富であることをうらやましく思い、またこういった資料を用いての講義を受けることができたことをうれしく思いました。それから実技の授業(ピアノ・歌・リコーダー・指揮・合唱など)も受けました。その中のピアノ奏法において、私は曲の作曲背景を考え、簡単ではありますが自分なりに曲を分析することを覚え、そしてこのことが演奏上いかに大切であるかということも知りました。ところで、講義にしろ実技の授業にしろ言葉の問題は常についてまわります。初めの頃は、教官の質問をとり違えて全く違ったことを答えたり、自分の気持ちや考えがうまく相手に伝わらなかつたりしました。それでも、まわりの人達のあたたかい助力のお陰もあって、何ヶ月か後にはそういった苦勞もなくなりました。こういった過程もすべてこのノートを読むと分かるのです。

そして残りのもう1冊のノートは、毎週金曜日に実施していた、小学校での教育実習の記録ノートです。小学校四年と五年のクラスで、音楽の授業を一年間見学しました。また六月には、私もドイツ人の友達と一緒に、“日本音楽”というテーマで授業をしました。授業のテーマには、“音符”“カノン”“作曲家”“リズム”“オーケストラ”などがありました。教材は、それぞれ担当の実習生が自分で選ぶことになっているようです。どの授業も自由でのびのびとした雰囲気の中で行なわれ、それでいて授業のポイントはしっかりとおさえられていました。生徒達は教科書を持たず、歌は殆んど聴唱法で覚えます。リズム練習では、からだを使ってリズムをとりながら、円になって全員であるダンスをしました。こういったドイツの音楽教育を実際に見て、毎週毎週、驚きと喜びの連続でした。

11ヶ月の留学で、とにかく私は、見ることも聞くことのできる限り多くのことを吸収しようと思いました。そして実際、この留学を通して得たことはとても多いのです。それを自分なりにまとめ、これからどう生かしていくかが私の課題です。この3冊のノートは、このことにも役立てていこうと思います。

今日もまた、ドイツから絵はがきが一枚届きました。帰ってきたばかりなのですが、次はいつドイツへ行こうかと考えています。

# 自動二輪車の構内交通の規制について

富山大学構内交通対策委員会

委員長 吉田和夫

本学のキャンパスは、今日の溢れる車に対応できる余裕のないことは周知の通りであります。ところが構内の道路は、自動車・二輪車・自転車等が、所狭しと置かれ、本来人の道、人の広場であったところが、まったくその機能を失いかけているのが現状であります。他大学と比較して、なきに等しい緑地帯も、年を追って増加する車両に占拠され、講義棟・研究室の窓際に到るまで車や二輪車が押寄せ、学問研究の府としての静かさを失いつつあります。いや、私達はすでに、静寂が何であったのか忘れてしまっているかも知れません。自動車という名の機械の便利さに酔いしれているうちに、その代償として失ったものが何であったかを、ここで改めて見つめ直す時点で私達は立たされているのではないのでしょうか。

現代の工業技術は、より新しく、より性能の優れた車を、より安価に、つぎつぎと私達に提供してくれます。ところが、工業技術は、誰れがその車を所有し、誰れが運転し、誰れが何処を走らせればいかまでは教えてくれるものではありません。構内の道路や空地は、本来、車のためのものではなかった筈です。ましてや、狭い構内での移動のために、車が使用されることに到っては、言語道断の行為としか言いようがありません。

構内交通対策委員会は、構内の環境の保全と、車による混雑の解消と、事故防止のために、その対策について検討を重ねてきました。その結果、先づ第一段階として、「富山大学構内交通規制に関する暫定要項」に従来規定がありながら、駐車スペースの確保が十分でなかった二輪車（自動二輪車・原付自転車）の専用駐車場が、正門（180台）、西門（60台）に設置されることになりました。これで既設の第一駐車場北側（42台）と合わせて282台が駐車可能となります。この設置に伴って、第一駐車場の自動車45台分の駐車スペースが、二輪車駐車場として転用されることになりました。二輪車用に転用された自動車駐車場は、従って、第三駐車場（図書館東側）に移設されることになりました。

昭和59年12月10日より、二輪車専用駐車場の設置に伴って、二輪車の構内運行は、8:30～17:30まで全面禁止になりました。これによって、構内に於ける事故

防止と、騒音の緩和が期待されます。（規制の変更については後記参照）

しかし二輪車に対する新しい規制によって、一切の混雑が解消できるものでは決してありません。増加し続ける自動車（無登録車）に対しても、この先、抜本的な対策が求められなければならないでしょう。本学のキャンパスの規模からいって、車との共存を考える時期はすでに過去のものであり、これからは、いかに車を構内から排除するかという問題と、真摯に取り組んでいかなければならないかと思われれます。

この問題は人対車の問題ではなく、人と車を運転する人、即ち、人対人の問題に帰します。車を利用する各人の大学人としての良識とモラルに、最終的にはその解決を求めるしかありません。私達各人が、駐車許可登録を含めて、構内交通規則を遵守することであり、それはまた、後を絶たない学外者の通り抜けや不法駐車を自づと排除できることにもなります。

現状の改善に向けて、更に工夫、努力を重ねることは勿論であります。貴重な青春時代を過す場として、より良い環境を創出するために、今回の自動二輪車に対する新しい規制の趣旨を理解され、その趣旨に基づく全面的な協力を学生諸君に要望します。

自動二輪車利用の皆さんへ

騒音及び事故防止のため、昭和59年12月10日から、二輪車（自動二輪車・原動機付自転車）の構内交通の規制方法が以下になりました。

二輪車の構内入構は8時30分から17時30分まで禁止します。

但し、正門と西門（2）の二輪車専用駐車場までの入構については、満車になるまで入構できます。満車になったら入構はできなくなりますから極力自粛して下さい。

他の門からの入構は一切できません。

やむをえず禁止時間中に構内を移動する場合は、エンジンを停止して移動して下さい。

○正門から入構する二輪車は

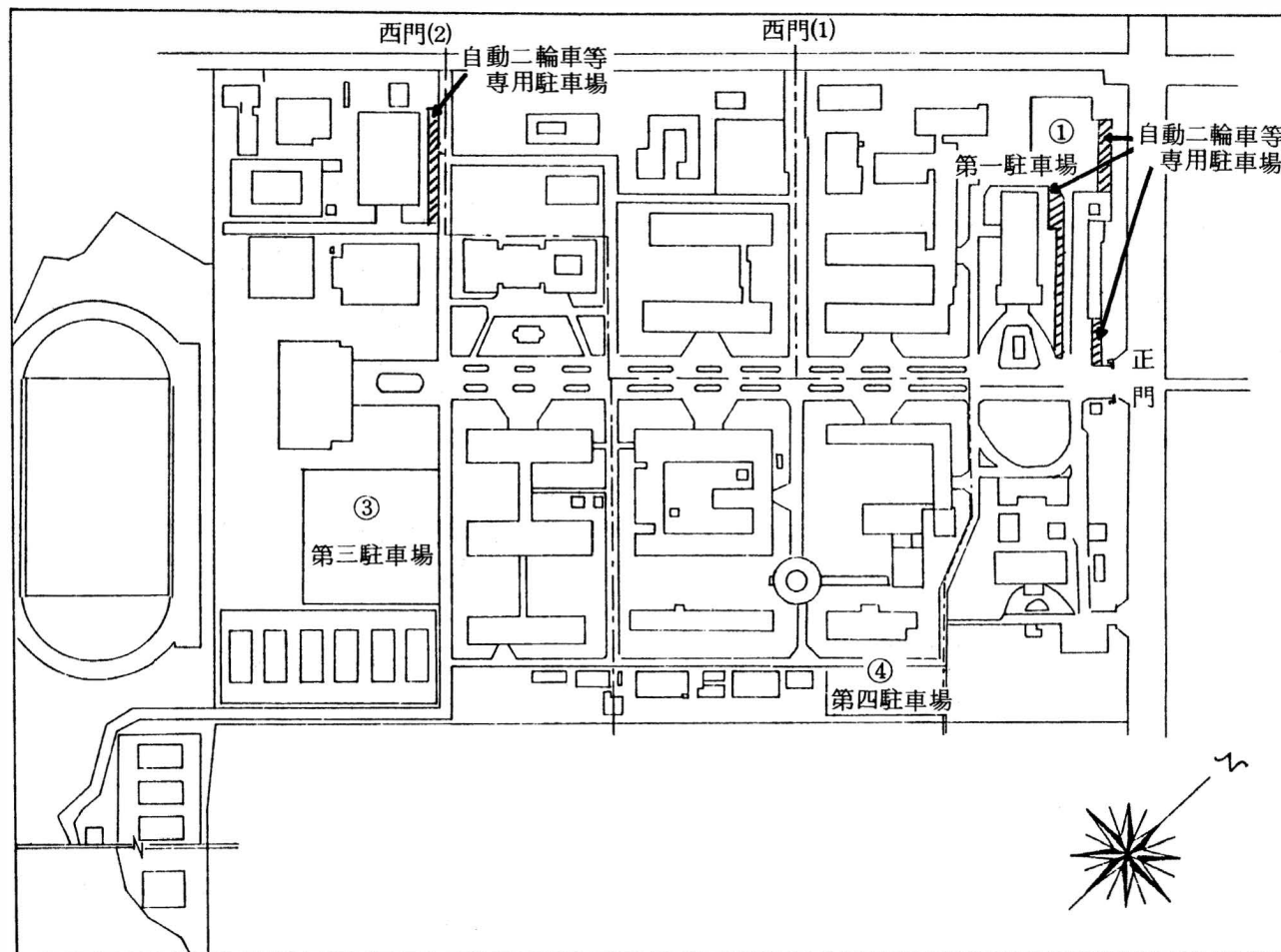
正門から入り、黒田講堂北側と第一駐車場北側の駐車場を二輪車専用駐車場とします。

○西門（2）から入構する二輪車は、  
西門（2）から入り、第一体育館北側を二輪車専用駐車場とします。

**駐車登録を行って下さい。**

各部局で手続を行って駐車許可証の交付を受け、ガソリンタンクに貼付して下さい。 以上

### 自動二輪車等駐車場位置図



### ◇ 交通事故に気を付けましょう !!

最近、連日のように交通事故のニュースがテレビや新聞等で報道されていますが、皆さんは、自動車・バイク等を運転する場合のみならず、歩行中も安全の確

認には十分留意してください。

又、キャンパス内で自動車・バイク等を運転する場合は歩行者の安全・騒音防止等に留意してください。

## ◇ 昭和59年度富山大学公開講座

### 健康・スポーツ教室

開設コース名	募集人員	受講者数	受講対象者	備 考
硬式テニスコース	40名	23名	婦人初心者	テニスシューズとボール2ヶ持参, ラケットは貸出可
ジョギングコース	20名	18名	一般男女	

(日程・開講時間数)

コース名	日付	8/23 (木)	8/24 (金)	8/25 (土)	8/27 (月)	8/28 (火)	8/29 (水)	8/31 (金)	9/1 (土)	計
硬式テニスコース		4	2	2	2	2	2	2	4	20時間

コース名	日付	9/10 (月)	9/12 (水)	9/14 (金)	9/16 (日)	9/18 (火)	9/22 (土)	9/24 (月)	9/25 (火)	9/29 (土)	10/2 (火)	計
ジョギングコース		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20時間

(講師及び講座内容)

硬式テニスコース 教育学部助教授 山下 三 郎, 教養部助教授 北 村 潔 和  
 体力診断及び体力増進法, ストロボ等による技術診断, 実技では各種ストローク, サーブ,  
 ボレー, スマッシュ等の基礎技術とゲームの進め方

ジョギングコース 教育学部教授 山 地 啓 司  
 ウォーミングアップの方法, トレーニング方法とスケジュールの作り方, 走り方, コースの  
 選定法, シューズの選び方, レースへの参加と準備の進め方など

### 現代史に学ぶ

(講座の目的)

我々が現代をより充実した生き方で過ごしていくためには, 過去, それとも近い過去であるおよそ100年の現代史に学ぶことが多々あるとおもわれるので, 人文科学・自然科学の両面から考察する。

(募集人員) 一般成人 70名

(受講者数) 59名

(日程, 講師及び講座内容)

回数	期 日	講 義 課 題	氏 名	所 属 ・ 職 名
1	10月12日(金)	明 治 か ら の 日 本 史	梅 原 隆 章	教 養 部 教 授
2	15日(月)	日 本 と 朝 鮮 の か か わ り	梶 井 陟	人 文 学 部 教 授
3	17日(水)	バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー の 幕 あ け	柳 田 友 道	富 山 大 学 長
4	19日(金)	日 本 の 現 代 経 済 史	小 松 和 生	経 済 学 部 助 教 授
5	24日(水)	家 族 制 度 の 変 遷 と 現 代 家 族	松 嶋 道 夫	経 営 短 期 大 学 部 教 授
6	26日(金)	現 代 自 然 保 護 の 動 向	小 島 學	教 養 部 教 授
7	31日(水)	現 代 文 明 と 人 間 の 問 題	中 本 昌 年	人 文 学 部 助 教 授
8	11月2日(金)	教 育 の 現 代 史	藤 井 敏 孝	教 育 学 部 教 授
9	7日(水)	放 射 能 の 現 代 史	竹 内 豊 三 郎	名 誉 教 授
10	10日(土)	エ レ ク ト ロ ニ ク ス の 現 代 史	宮 下 和 雄	工 学 部 教 授

## 学 部 だ よ り

### ◆ 人文学部 —— 訃 報 ——

都竹通年雄先生を偲んで

人文学部教授都竹通年雄先生が傷ましい事故で突然逝去されましたのは、今年（昭和59年）8月2日のことでした。その詳細については新聞等で報じられておりますが、この紙面を借りて先生を紹介し、その面影を偲び、哀悼の意を表したいと思ひます。

先生は大正9年3月28日、岐阜県萩原町にお生まれになりました。その後病苦と闘いながら苦学し、昭和49年、東京都立大学大学院（修士課程）を修了、55年4月、富山大学人文学部教授として赴任されましたが、国語学者としての声名は以前から高く、「標準語確立のために」（『方言学概説』武蔵野書院、昭和37年）、「東西両方言の違いはどうしてできたか」（『言語生活』昭和46年）、「本土方言の音韻研究の問題点」（『現代方言学の課題』明治書院、昭和58年）等は学界でも高い評価を得ております。不運にして、研究職には就けない年月がりましたが、昭和21年～22年、27年～29年、32年～53年の間、三省堂辞書編修員として、『明解古語辞典』、『新明解国語辞典』、『三省堂国

語辞典』の執筆・編集に従事されました。昭和50年から武蔵大学講師を勤められ、55年から4年4ヶ月の間、富山大学教授として、方言学を中心とした国語学を体系的に講じられました。先生の学問は強い人間愛に支えられた国語学であったと思ひます。

もしご存命であれば、明年3月、停年退官され、新天地で教鞭を取られることになっておりました。それを思うと新たな悲しみの涙を催さざるを得ません。

先生の蔵書は、ご遺族のご好意で、富山大学付属図書館に「都竹通年雄文庫」として納められることになりました。多方面にわたる貴重な学術文献は今後の学問の発展に資するところ少なくないと思ひます。ご遺族には厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、都竹先生ご逝去に際して、学内外の方々に一方ならぬご厚情ご配慮をいただきました。これも先生ご生前中の人柄によるところが大きいと思ひますが、人文学部国語国文学研究室より厚くお礼申し上げます。（K・Y 記）

### ◆ 教員学部

#### 昭和59年度教員養成課程合宿研修を終えて

実行委員長 桶谷哲也

「立て板に水を流すように、運営ガスマーズにいった。」という、有峰青少年の家の所長さんの賞賛の声、「とても有意義だった。参加してよかった。」という参加した学生の声、そしてスケジュールにはなかった実行委員への感謝の拍手。どれも皆、私の胸を感激でいっぱいにするのに十分過ぎる程十分であった。

思えば、さんさんと照り輝く熱い夏の太陽のもと、それぞれの企画委員が全員力を合わせてアイデアを出し合い、労力の割にたくさんの仕事を能率的にこなして準備を進めていったこと。また当日も、夜には底冷えのする有峰の寒さにもめげず、各企画ごとのリーダーの素晴らしい指導力と実行委員間の固いチームワーク、他の学生の積極的な参加意欲があって始めて、このような大成功を収めることができた。また、指導し

て下さった有峰青少年の家の所長さんを始め職員の方々（特に指導員の弓部先生には、多くの時間を割いていただいた。）、本学部の浅田教授始め教職員の方々の惜しめない協力のおかげであると、大変感謝している。

さて、私がこの研修の良かった点についてあまり触れると、いくらか手前ミソになるので、ここではむしろ反省点について触れることにしよう。

まず、第一に欠席者が大変多かったことである。当初参加を予定した200人余りのうち約15%が欠席してしまった。出発日の前夜まで激しい雨にたたられたために、「この天気ではとても……。」と、直前になって参加を取りやめた学生もいたのだろう。

そのため、班の人数は、10人の班があるかと思うと、

一方では5人に減ってしまった班も出て、各班員に役割分担されていたキャンプ場での野外炊飯用具や食事の材料が整わず、困っている班があった。教師としてやっていくために必要なことは、単位その他で他から強制されなくても、自らの意志で行っていかうという自覚をもって欲しいものであることを欠席者に伝えなければならないのは、とても残念なことである。(後日、欠席者の中にも参加した人の話を聞いて、自分も参加すれば良かった、という反省の声を多く聞いたことも付け加えておく。)

以上は参加者側の反省点であるが、次に企画・立案側での反省点について述べておこう。確かに、「企画立案や運営がうまくいった。」とか「参加して良かった楽しかった。」という声が多かったが、それはそれで良いにしても、これだけで満足してしまって果たして良いのだろうか。

この研修での、参加者の自己の養成は、あくまでも将来に控えているであろうはずの子供達のものになっていなければならない。そのためには、参加する各人にとって楽しくないことでも、必要なことは必要なこととして、研修内容に加えていく姿勢が必要ではなろうか。立案段階で、この内容では参加者が乗り気にならないのでは、と遠慮があったのも事実である。

「将来の子供達のための研修」という点からすれば

「この研修を単位制にして、学部側の行事に学生が完全に参加する形にしてしまおう」とか、あるいは、それとは逆に「学生が全く自主的にやらせて欲しい」という議論とは全く別の観点から話を進めていく必要があるのではないかと。誰がするかよりも、何のためにするか、という原点に帰って、考えていかなければならないのではないかと思う。

今の子供たちの教室での姿に、自から動こうとはせず、じっと閉じこもっている姿を見受けることがある。しかし、そんな子どもでも、一步教室の外へ出て、何かのきっかけをつかみさえすれば、思いもかけず生き生きとした表情を見せ、みなぎる生気を私達に感じさせてくれることがある。それ故、教室の中だけでは引き出すことのできない子供達の能力、子供によって異なる様々な個性を発揮することができる場を、子供達に与えることの必要性を、私は痛感する。私達は、子どもたちが、自分を発揮することができる場を創造的に用意することが出来るだけの人間にならなければならない。そのために必要なことは、決して大学の講義からだけでは学ぶことのできないものがあるはずだと思う。そのためにこそ、この合宿研修があるのではないかと。

有峰の夕陽をいっぱいに浴びて、澄みきった秋空にくっきりと浮び上がった薬師の雄々しい姿を頭に想い描きつつ、このへんでペンを置くこととする。

## 教育実践研究指導センターだより

センター助教授 山西潤一

### (3) LOGOを使った教材研究

講師 戸塚滝登(湖南小学校)

従来の教師向けのコンピュータセミナーでは、コンピュータを動かすためのプログラミングが中心になっていたが、本セミナーではプログラミングよりも、教育の場でいかにコンピュータが活用できるのかという基本的問題に対する理解を深めることに主眼がおかれた。そこで、(1)では学級経営の省力化のために導入したはずが入力システムの不備からかえって教師の負担が増大した例や、出力結果としての数値のみにとらわれて生徒の実態が正しく把握されない例、従来の教材を単にコンピュータ教材におき直した例等、学校教育へのパーソナルコンピュータ導入に関しての種々の問題点が示され、何のためにコンピュータを導入するの

教育実践研究指導センターでは機器設備等の整備が一通り完了したのにもない、今年度より学生、現職教師に対するセミナーを順次開講することになり、その手初めとして今夏二つのコンピュータ関連セミナーが下記の通り開講された。

#### 1. 「パーソナルコンピュータの教育における活用を考える」セミナー

期日 8月20日(月)、21日(火)

対象 小中学校教師 定員40名

内容 (1)CAI, CMI的活用における問題点とCALNET構想

講師 山西潤一(富山大学)

(2)カテゴリー分析手法による授業研究

講師 本多信昭(速星中学校)

か、教材教具として活用する場合には、従来の教材にないコンピュータの特徴が生かされているのか等について十分検討すべきだと指摘された。また、現在のソフトウェア不足を解消するため、今後お互いに有用なソフトウェアを共に開発し共に使用するためのシステムとしてセンターが考えているCALWET (Computer Assisted Learning Network system) 構想についても示され先生方の関心を集めた。(2)では、コンピュータを使った授業分析の一つとしてカテゴリー分析が紹介され、従来主観的に行なわれていた授業の評価を定量的に行ない、指導法改善に役立てる方法が示された。(3)では、新しいCAIとしてLOGOが紹介され、このLOGOを生かした教材について示された。

各講演の後、センターのローカルネットワークを使ってグループごとに実習を行ない、授業分析やLOGO教材についての理解を深めた。定員40名に対して48名の教師の参加が得られ、午前10時から午後5時まで熱気あふれるセミナーであった。ほとんど全員がコンピュータに関しては初心者で、最初は機械操作にとまどいもあったが、2日間のセミナーでコンピュータが非

常にみじかなものと感じられた様子で、今後の活用が期待された。

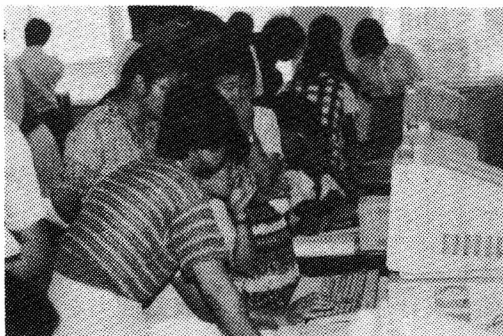
## 2. 教育情報処理セミナー

期日 8月30日(木), 31日(金)

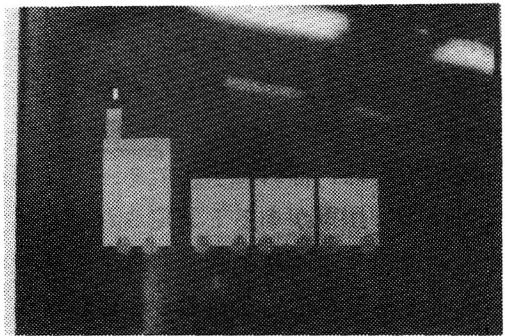
対象 教育学部3, 4年次学生 定員30名

内容 統計処理, 教材作成, 授業分析等に必要プログラミングの基礎技法の修得

夏休み中にもかかわらず28名の参加が得られ、BASIC言語を用いて、統計処理や教材作成に必要なプログラミング技法について講演が行なわれた。全員初心者であったが、2~3時間の講習で簡単な統計処理プログラムが書けるようになった。教材作成の実習では、パーソナルコンピュータのグラフィック機能を生かして、2次関数のシミュレーション問題やコンピュータグラフィックを作成する等、学生の理解の速さに驚かされた。今回の参加はほとんどが4年生で、セミナーで学んだ技法を、今後は各自の専攻教科で卒論等に生かしていきたいと意欲的であった。



熱心に実習に取り組む先生達



学生の描いたコンピュータグラフィックの例

## 日本物理学会 1984 年秋の分科会 (物性関係) 開かれる

理学部教授 佐藤清雄

去る10月2日から5日迄の4日間、日本物理学会、1984年秋の分科会(実行委員長 児島毅 富山大学理学部教授)が富山大学を会場にして開催され、日本全国の大学・研究所の物性物理学の基礎研究にたずさわる研究者約2,400名が学術討論のために集まり、午前9時から午後5時半迄、22会場を使い結晶成長、格子欠陥等の23分科に分かれて1,831題の研究発表が行われました。日本物理学会のこのような大会が富山県で開かれた

のは初めてです。

富山大学からは、原子・分子分科で児島教授グループのメチルメルカプタンのマイクロ波、赤外分光、高木教授グループのメチルアルコールの同位体に対するレーザー及びマイクロ波分光に関係した研究3題、結晶成長分科で杉田教授グループによる銀テルル合金薄膜の電子顕微鏡による研究、表面・界面の分科で龍山教授グループのシリコン面上にゲルマニウムを蒸着さ



せたときの初期成長過程に関するもの5題，磁性分科及び半導体分科では私のグループの希土類化合物の電気伝導の磁場依存性及びグラファイトの異種原子・分子をインターカレートした物質の電子構造に関連した研究6題，その他3題計19題が発表されました。

学会の運営を滞りなく出来たのは，学会関係者の協力によることは勿論のこと，教養，教育，理学，人文及び全学各関係者の方々の協力のお陰です。ここに謝意を表します。

## — 学 生 部 だ よ り —

### ◇ 日本育英会法の改正について

学生部 厚生課

日本育英会法が改正され，昭和59年8月7日から施行されました。昭和59年4月1日入学者から適用されますが，その概要は次のとおりです。

#### I 無利子貸与制度の改善と有利子貸与制度の創設

従前の一般貸与と特別貸与を一本化して，無利子の第一種奨学金とし，新たに財政投融资資金を導入して，有利子の第二種奨学金が創設されました。

第一種奨学金は，特に優れた学生であって，経済的理由により著しく修学に困難があると認定された者に貸与されます。返還に際し，利子はずかず元金だけ返還します。

第二種奨学金は，優れた学生であって，経済的理由により修学に困難があると認定された者に貸与されます。返還の際，元金と利子（在学中は無利子で，卒業後は年3%の利子）を返還しなければなりません。

種 類	区 分	貸 与 月 額		
		大 学	専 攻 科	大 学 院
第一種奨学金 (無利子の奨学金)	自宅通学	22,000円	22,000円	} 65,000 円
	自宅外通学	28,000	28,000	
第二種奨学金 (有利子の奨学金)	自宅通学	22,000	22,000	/
	自宅外通学	28,000	28,000	

#### II 第一種奨学金及び第二種奨学金の併用貸与

第一種奨学金を受けることになっても，なお修学を維持することが困難と認定された者に対しては，第一種奨学金に併せて第二種奨学金が貸与されます。

#### III 教員奨学生制度の廃止

教員養成学部の学生を対象に設けられていた教育奨学生制度が廃止され，他の学部学生と同様の取扱いとなります。

#### IV 奨学金返還免除制度

奨学金は卒業後すべて返還しなければなりません。が，次の場合は返還が免除されます。

1. 大学，大学院において受けた第一種奨学金については，所定の教育・研究職に一定年数従事したとき。
2. 死亡又は心身障害により返還能力を失ったとき（第一種奨学金，第二種奨学金とも適用される）

#### V 経過措置

昭和59年3月31日以前から在学している者に対する奨学金の貸与及び返還については，なお，従前の例によります。

大学院に在学している者については，現に受けている奨学金を第一種奨学金とみなします。

### ◇ 全学就職説明会

学生部 厚生課

全学就職説明会が去る9月5日(水)経済学部201番教室で開催されました。

説明会には，4年次生約100人が出席し，株式会社リクルート名古屋支社の数 一昭事業課長を講師にむ

かえ，今年度の就職状況，企業選択の方法，会社訪問のポイント，採用側の求める人物等について講演がありました。続いて質疑応答にはいり，学生から種々質問がなされ，盛況のうちに終了しました。

## ◇ 福利厚生施設について

### 学生部厚生課

昭和59年度予算によって、工学部の敷地に第2大学食堂が昭和60年1月25日竣工予定で建設されます。

工学部はもちろん、本学の五福キャンパス全体としても福利厚生の充実のため大切な役割を担う建物として期待されます。

この建物には、食堂、喫茶・軽食、食品、購買書籍及び談話コーナーが配置されることになっており、喫茶・軽食については（財）学校福祉協会が、その他は富山大学生生活協同組合が営業することになっています。

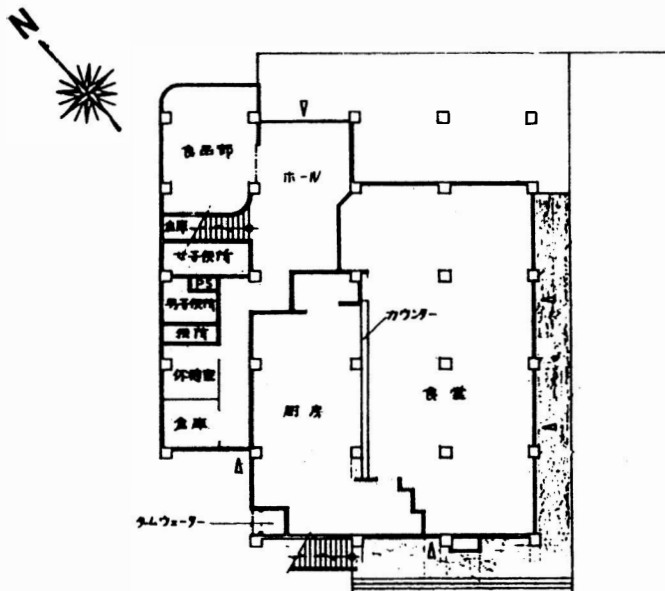
食堂については、備品の付設状況によって当初定食

形式が考えられますが近い将来には「カフェテリア方式」を採用したいと考えています。カフェテリア方式とは、各自が好みの一品料理を各々選んでお盆に乗せレジで精算する方法です。

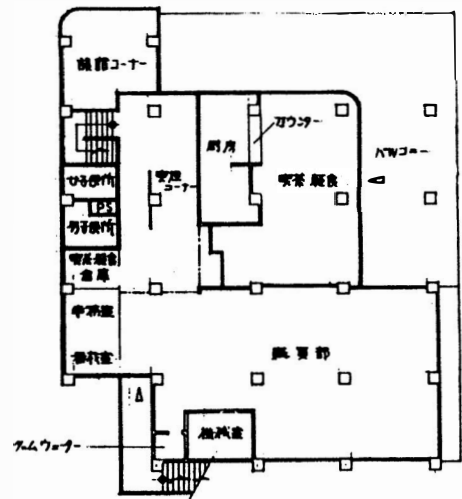
また喫茶・軽食については、飲物や食事をしながらゆっくりくつろげる場所にしたいと考えています。

建物面積 835.38 m<sup>2</sup> 2階建

第2大学食堂開店 昭和60年3月予定



1階平面図



2階平面図

## ◇ 昭和59年度後期授業料免除について

後期授業料の免除については、さきで開催の授業料等減免選考委員会の選考を経て、出願者591名（学部549名、大学院37名、専攻科5名）に対して、488名（学部449名、大学院34名、専攻科5名）を許可し、81名（学部79名、大学院2名）については文部省と免除の是非について協議中である。

(参考) 前期授業料免除実施状況

区分	出願者	許可者	不許可者
学部	562名	493名 (3)	69名
大学院	40	34	6
専攻科	6	5	1
計	608	532 (3)	76

( )内は半免で内数

◇ 第36回北陸地区国立大学体育大会 団体成績一覧表

種目	優勝杯	1位	2位	3位	4位	5位		
男	陸上競技	金沢大学長杯	金沢	富山	福井	富医薬	福医	
	野球	富山大学長杯	.	.	.	.	.	
	庭球	富山県体育協会長杯	富医薬	金沢	富山	福医	福井	
	軟式庭球	石川県知事杯	金沢	富山	福井	富医薬		
	卓球	金沢市長杯	金沢	福井	富山	富医薬		
	バドミントン	福井市長杯	金沢	富山	富医薬			
	バレーボール	福井県知事杯	金沢	富山	富医薬	福井		
	サッカー	石川県知事杯	金沢	富医薬	富山	福井		
	ラグビー・フットボール	富山県知事杯	金沢	福井	富医薬	富山		
	剣道	福井県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医薬	福医	
	柔道	富山県議会議長杯	金沢	福井	富医薬	富山	福医	
	バスケットボール	福井大学長杯	金沢	福井	富山	富医薬	福医	
	水泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	富山	金沢	福井	富医薬	福医	
	ヨット	石川県議会議長杯	金沢	富山	福井	富医薬		
子	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯	富医薬	福医	富山	福井	金沢	
	ハンドボール	金沢大学長杯	金沢	富山	福井	富医薬		
	空手道	福井市長杯	富医薬	富山	福医	金沢	福井	
	弓道	富山大学長杯	富山	福井	金沢 富医薬			
	体操	福井市議会議長杯	金沢	福井	富医薬			
	自動車	金沢大学長杯	富山	金沢				
	女	陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医薬	
		庭球	石川県議会議長杯	金沢	福井	富山	富医薬	
		軟式庭球	福井県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医薬	
		卓球	石川県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医薬	
バドミントン		福井県教育委員会杯	福井	金沢	富山	富医薬		
バレーボール		富山大学後援会長杯	金沢	富山	福井	富医薬		
剣道			金沢	富山	福井	富医薬	福医	
バスケットボール		富山市議会議長杯	金沢	福井	富山	富医薬		
ソフトボール		井村杯・北信杯ソフトボール協会旗						
弓道			金沢	福井	富山	富医薬		
水泳	福井大学長杯	富山	福井	金沢	福医			

## ◇ 昭和59年度北陸地区国立大学体育連盟表彰者(本学分)

陸上競技部・スキー部 西田 佐知子 (富山大学教育学部中学校教員養成課程4年)

### 《実績》 陸上競技

昭和56年度

北信越学生記録会	砲丸投	8 m 59	1位
第55回北信越学生陸上競技対校選手権大会	砲丸投	8 m 74	1位
第33回北陸四大学学生総合体育大会	800 m	2分49秒4	1位
//	砲丸投	8 m 74	1位
第12回北信越学生陸上競技選手権大会	砲丸投	8 m 87	1位

昭和57年度

第56回北信越学生陸上競技対校選手権大会	砲丸投	9 m 46	1位
//	やり投	27 m 74	1位
第34回北陸地区国立大学体育大会	400 m	67秒8	3位
//	800 m	2分46秒7	2位
//	砲丸投	8 m 86	1位
第13回北信越学生陸上競技選手権大会	砲丸投	8 m 49	1位
//	やり投	25 m 56	3位

昭和58年度

第57回北信越学生陸上競技対校選手権大会	400 m	65秒09	4位
//	砲丸投	9 m 09	1位
//	やり投	28 m 02	2位
//	円盤投	21 m 72	5位
第35回北陸地区国立大学体育大会	800 m	2分37秒6	2位
//	砲丸投	9 m 09	1位
//	やり投	28 m 02	1位
第14回北信越学生陸上競技選手権大会	800 m	2分42秒0	4位
//	砲丸投	9 m 72	1位
//	やり投	28 m 86	2位

### 《実績》 スキ -

昭和56年度

富山県民体育大会	5 Km	2位
富山県スキー選手権大会	5 Km	5位
//	10 Km	5位
中部日本学生スキー選手権大会	5 Km	6位
国民体育大会	5 Km	36位
全日本国公立大学学生スキー大会	5 Km・10 Km	参加
東日本国公立大学学生スキー大会	5 Km	1位

昭和57年度

富山県民体育大会	5 Km	2位
富山県スキー選手権大会	5 Km	5位
//	10 Km	4位
中部日本学生スキー選手権大会	5 Km	4位
国民体育大会	5 Km	24位
全日本国公立大学学生スキー大会	5 Km	参加

昭和58年度

富山県民体育大会	5 Km	3位
富山県スキー選手権大会	5 Km	3位
//	10 Km	3位
中部日本学生スキー選手権大会	5 Km・10 Km	参加

◇ 第 34 回 北陸三県大学学生

交 歓 芸 術 祭 日 程 表

昭和59年10月20日～12月2日

期 日 部門別	10 月				11 月												12 月			
	20 日 (土)	21 日 (日)	27 日 (土)	28 日 (日)	3 日 ⊕	10 日 (土)	11 日 (日)	13 日 (火)	14 日 (水)	15 日 (木)	16 日 (金)	17 日 (土)	18 日 (日)	23 日 ⊕	24 日 (土)	25 日 (日)	30 日 (金)	1 日 (土)	2 日 (日)	
管 弦 楽													県教 育会 館	厚生 年金 会館						
軽 音 楽	金大学 学生会館																			
合 唱					金大学 学生会館 教養部															
邦 楽			金大学 学生会館																	
能 楽					能楽 文化 会館															
美 術														金沢大学 学生会館						
書 道																	金沢大学 学生会館 教 養 部			
茶 道															市内寺院 金沢大学 教 養 部					
放 送 劇																市 内 寺 院				
落 語					金大学 学生会館															
写 真							金沢大学学生会館													

## ◇ 昭和 59 年度後学期専門移行者調

(59. 10. 1 対)

学部	学科	入学年度	専門教育課程移行者数						移行不許可者数	移行対象者数
			52	53	54	55	56	57		
人 文	人文学科					1	2	77	11	91
	語学文学科						1	70	13	84
	計					1	3	147	24	175
教 育	小学校教員養成課程							138	3	141
	中学校教員養成課程						1	44	7	52
	養護学校教員養成課程							19	1	20
	幼稚園教員養成課程							29	1	30
	計						1	230	12	243
経 済	経済学科						1	100	33	134
	経営学科						5	100	25	130
	経営法学科						2	49	13	64
	計						8	249	71	328
理	数学科						3	30	12	45
	物理学科				1	2	2	26	23	54
	化学科							36	6	42
	生物学科						4	23	8	35
	地球科学科							21	14	35
	計				1	2	9	136	63	211
工	電気工学科				1	1	1	32	23	58
	工業化学科					1	2	32	15	50
	金属工学科				1	1	2	19	31	54
	機械工学科					1	6	33	25	65
	生産機械工学科						4	25	22	51
	化学工学科					2	4	19	28	53
	電子工学科						3	32	10	45
	計				2	6	22	192	154	376
合 計				3	9	43	954	324	1,333	

# 昭和59年度学生教育研究災害傷害保険加入状況

(59.5.1現在)

学部 学年 学科(課程)	1 年 生			2 年 生			3 年 生			4 年 生			合 計			
	在学者	加入者	加入率	在学者	加入者	加入率	在学者	加入者	加入率	在学者	加入者	加入率	在学者	加入者	加入率	
人文学部	人文学科	90	100	100	92	89	96.7	100	90	90.0	97	96	99.0	379	365	96.3
	語文学科	80	80	100	84	76	90.5	90	76	84.4	101	80	79.2	355	312	87.9
	計	170	170	100	176	165	93.8	190	166	87.4	198	176	88.9	734	677	92.2
教育学部	小学校教員養成課程	145	145	100	141	140	99.3	139	139	100	160	141	88.1	585	565	96.6
	中学校教員養成課程	45	45	100	54	51	94.4	48	48	100	60	50	83.3	207	194	93.7
	養護学校教員養成課程	20	20	100	20	20	100	21	20	95.2	20	19	95.0	81	79	97.5
	幼稚園教員養成課程	30	30	100	30	30	100	29	29	100	31	30	96.8	120	119	99.2
経済学部	計	240	240	100	245	241	98.4	237	236	99.6	271	240	88.6	993	957	96.4
	経済学科	120	120	100	136	130	95.6	106	106	100	146	123	84.2	508	479	94.3
	経営学科	121	121	100	132	132	100	112	112	100	134	119	88.8	499	484	97.0
理学部	経営法学科	60	50	100	65	58	89.2	59	59	100	64	64	100	248	241	97.2
	計	301	301	100	333	320	96.1	277	277	100	344	306	89.0	1,255	1,204	95.9
	数学科	40	40	100	46	38	82.6	49	47	95.9	30	30	100	165	155	93.9
	物理学科	41	41	100	54	41	75.9	50	44	88.0	35	35	100	180	161	89.4
工学部	化学科	40	40	100	43	40	93.0	49	49	100	27	27	100	159	156	98.1
	生物学科	30	30	100	35	28	80.0	33	31	93.9	27	27	100	125	116	92.8
	地球科学科	30	30	100	35	30	85.7	40	37	92.5	26	26	100	131	123	93.9
	計	181	181	100	213	177	83.1	221	208	94.1	145	145	100	760	711	93.6
工学部	電気工学科	50	50	100	58	49	84.5	61	51	83.6	48	48	100	217	198	91.2
	工業化学科	45	45	100	50	45	90.0	52	48	92.3	42	42	100	189	180	95.2
	金属工学科	40	40	100	54	46	85.2	37	37	100	42	42	100	173	165	95.4
	機械工学科	50	50	100	66	50	75.8	67	67	100	31	31	100	214	198	92.5
	生産機械工学科	40	40	100	52	40	76.9	52	50	96.6	31	31	100	175	161	92.0
	化学工学科	40	40	100	54	40	74.1	43	41	95.3	47	45	95.7	184	166	90.2
	電子工学科	40	40	100	46	40	87.0	47	46	97.9	36	36	100	169	162	95.9
	計	305	305	100	380	310	81.6	359	340	94.7	277	275	99.3	1,321	1,230	93.1
学部計	1,197	1,197	100	1,347	1,213	90.1	1,284	1,227	95.6	1,235	1,142	92.5	5,063	4,779	94.4	
大学院	理学研究科	22	22	100	26	24	92.3							48	46	95.8
	工学研究科	42	42	100	41	39	95.1							83	81	97.6
専攻科	文学専攻科	9	4	44.4										9	4	44.4
	教育学専攻科	6	4	66.7										6	4	66.7
	経済学専攻科	2	2	100										2	2	100
研究生	14	0	0										14	0	0	
合計	1,292	1,271	98.4	1,414	1,276	90.2	1,284	1,227	95.6	1,235	1,142	92.5	5,225	4,916	94.1	



# 昭和 58 年度学生教育研究災害傷害保険利用状況

1. 月別事故発生件数 (59. 3. 31 現在)

年月 件数	58年		59年		計							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事故通知	10	14	9	3	4	7	6	11	4	5	2	80
保険金請求	7	8	4	3	4	5	4	8	2	5	2	55

## 2. 専攻分野別事故発生状況

区分 専攻分野	課 中												計			学 部			大 学 院			合 計																								
	体育の実技中		実験実習中		そ の 他		学 校 行 事 中		課 外 活 動 中		休 息 ・ そ の 他		合 計		学 部			大 学 院																												
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		女																							
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		計																							
人文学部	1	2	1	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	3	2	5	2	5	2	5	2																				
教育学部	3	9	1	4	15	15	1	13	15	13	1	25	6	31	8	4	7	12	31	8	4	4	7	31	8	4	31	8	4	31	8	4														
経済学部							1	20	20	1	1	22	1	22	9	7	3	3	22	9	7	3	3	22	9	7	3	3	22	9	7	3	3	22	9	7	3	3								
計	4	11	1	5	18	18	2	37	37	1	1	31	1	31	27	19	14	15	58	35	12	14	15	10	58	35	12	14	15	10	58	35	12	14	15	10	58	35								
理学部	3	3			3	3			4	4		7	7	7	3	2	1	1	8	3	3	2	1	8	3	3	2	1	1	8	3	3	2	1	8	3	3	2	1	8	3	3				
工学部	1	4	4	3	8	8	1	4	4	4	1	14	1	14	14	1	4	7	12	1	2	2	14	4	7	12	1	2	2	14	4	7	12	1	2	2	14	4	7	12	1	2	2			
計	4	4	4	3	11	11	1	8	8	1	1	21	1	21	1	4	2	6	20	4	3	2	6	8	8	20	4	3	2	6	8	8	20	4	3	2	6	8	8	20	4	3	2	6	8	8
合 計	8	11	4	6	16	16	2	32	32	2	2	52	2	52	28	23	16	21	78	55	15	16	78	55	15	16	78	55	15	16	78	55	15	16	78	55	15	16	78	55	15	16	78	55		

( )内は保険金請求件数

① 正 課 中

体育の実技中

区 分	男	女	計
バスケットボール	2 (2)	3 (2)	5 (4)
バレーボール	2 (2)	3 (2)	5 (2)
サッカー	1	2 (1)	3 (1)
ソフトボール	1 (1)	1	2 (1)
登山	1 (1)		1 (1)
柔道			1
剣道		1 (1)	1 (1)
遊技		1	1
計	8 (6)	11 (4)	19 (10)

理工系実験実習中

事故原因	男	女	計
ガラス器具の破損	1 (1)		1 (1)
薬品の付着	1 (1)		1 (1)
水蒸気の爆発	1 (1)		1 (1)
ガス吸入	1 (1)		1 (1)
計	4 (4)		4 (4)

そ の 他

区 分	男	女	計
教育実習中	1 (1)	2 (1)	3 (2)
講義中	1 (1)		1 (1)
場所移動中	2 (2)		2 (2)
計	4 (4)	2 (1)	6 (5)

② 学校行事中

行事名	男	女	計
スキー講習会	1 (1)	1 (1)	2 (2)
体育祭	1 (1)		1 (1)
計	2 (2)	1 (1)	3 (3)

④ 休憩・その他

区 分	男	女	計
休憩中	1		1
学校施設内の事故	1 (1)		1 (1)
計	2 (1)		2 (1)

⑥ 傷害種類別件数 (男女別)

傷害名	男	女	計
骨折	6 (5)	4 (2)	10 (7)
捻挫	19 (13)	16 (11)	35 (24)
脱臼	3 (1)		3 (1)
打撲	8 (4)	3 (1)	11 (5)
刺傷	1 (1)		1 (1)
突き指	1 (1)	3 (1)	4 (2)
切傷	2 (2)		2 (2)
裂傷	1 (1)		1 (1)
挫傷	3 (3)		3 (3)
靭帯損傷	3 (3)	2 (1)	5 (4)
火傷	3 (3)		3 (3)
眼底出血	1 (1)		1 (1)
鼻炎	1 (1)		1 (1)
計	52 (39)	28 (16)	80 (55)

③ 課外活動中

部 名	男	女	計
バスケットボール	5 (4)	6 (4)	11 (8)
バレーボール	2 (2)	3 (2)	5 (4)
サッカー	7 (4)		7 (4)
ハンドボール	2 (1)		2 (1)
硬式野球	2 (2)		2 (2)
ソフトボール	1	2 (2)	3 (2)
ラクビー	1 (1)		1 (1)
軟式庭球	1 (1)		1 (1)
卓球	1 (1)		1 (1)
柔道	6 (4)		6 (4)
合気道	1	1	2
スキー	1 (1)		1 (1)
サイクリング		1 (1)	1 (1)
水泳		1 (1)	1 (1)
準硬式野球	1		1
写真	1 (1)		1 (1)
計	32 (22)	14 (10)	46 (32)

⑤ 事故発生場所 (どの場所で多いか)

場 所	件数	割合
体育館	32 (22)	40.00 (40.00)
グラウンド	20 (12)	25.00 (21.81)
武道場	10 (5)	12.50 (9.09)
実験・実習室	5 (5)	6.25 (9.09)
道路・通路	4 (4)	5.00 (7.27)
スキー場	2 (2)	2.50 (3.64)
山 岳	2 (2)	2.50 (3.64)
階段・廊下	2 (1)	2.50 (1.82)
テニスコート	1	1.25
バレーボールコート	1 (1)	1.25 (1.82)
講義室	1 (1)	1.25 (1.82)
計	80 (55)	100.00

## — 保健管理センターだより —

カウンセラー 高尾 テルノ

あなたは健康ですか。毎年行われている定期健康診断を受診して自分の健康についてチェックしていますか。自覚症状がないから、運動をやっているからといってすべて健康とはいえません。

みなさんの中には「からだなんか」「健康なんか」といって安易に考えている人はいませんか。

みなさんの現在の生活が20～30年後、社会的にも家庭的にも柱となるべき時期に発現する成人病につながるものとすれば、今のうちから普段の心がけが大切かと思えます。

当センターでは、みなさんの健康の維持、増進を目的としていろいろ企画し、1人でも多くの方たちが、健康について関心を高めてくださることを期待しています。

### ◆ 第2回北陸地区5大学合同健康増進合宿セミナー実施について

昭和59年度のスキーを取り入れた合宿セミナーは、昭和60年3月2日(土)～4日(月)の2泊3日の予定で、極楽坂スキー場(やまふじ山荘)で行われます。

このセミナーは、日頃感じていることなどを自由に話し合ったり、グループ体験を通して新しい友人関係、新しい自己を発見するためのグループ合宿です。また、学生同志、教官と学生、さらに地域の各大学との密接な交流を図ることを目的としています。

経費は、9,000円です。今のうちから来春の計画予定の一つに入れて是非参加してください。

参加大学は、富山大学、富山医科薬科大学、金沢大学、福井大学、福井医科大学です。

詳細については、来春2月上旬に各学部の掲示板でお知らせいたします。

### ◆ 健康の集いについて

あなたは大丈夫ですか！

健康についての意識・関心を高めることを目的とし

て、毎月1回、VTRやスライドを見ながら「健康について大いに語り、考えよう」ということで、センターのレク・セラピー室で健康の集いが行われています。後期の予定は、次の表のとおりです。

月 日	曜日	テ ー マ
11月29日	木	精神衛生・こころの病気
12月13日	木	冬の健康と血圧
1月24日	木	楽しいリズム運動
2月13日	水	貧血と食事

PM1:30～

それぞれのテーマに関心のある方は、気軽に参加してください。

### ◆ 診療室より

① 昨年度(58年度)の定期健康診断の受診率は78.3%という低さでした。

1年生(98.8%)、4年生(84.0%)はやゝよいですが、2年生、3年生の受診率は、30%～44%という低さでした。

健康は、自分でつくり、守るという原則を忘れずに年1回の定期健康診断は必ず受診するように心がけましょう。

② 昭和59年度前期(4月～9月)の診療室利用者数は1,674人でした。内訳を見ますと各月共1位は、切刺、擦過傷、打撲、つき指、捻座などの外科的疾患です。その中、車(自転車、オートバイ、自動車など)による怪我が12.7%もあります。お互にスピード、左右の確認に充分気を付けましょう。

また、その他の疾患で眼科疾患が徐々に多くなってきています(53%)。大切な目をいたわりましょう。心身共に、常に健康であるために、何か変だと感じたり、気づいた時には早目に相談室や診療室においでください。

# 昭和58年度保健管理センター利用状況調

(1) 診療室利用者数

病種	男 子 学 生						女 子 学 生						合 計		
	人文	教育	経済	理	工	教養	計	人文	教育	経済	理	工		教養	計
風邪	62	47	206	171	190	133	809	21	31		9	4	57	122	931
胃腸の疾患	17	17	103	50	56	82	325	4	27	1	14		34	80	405
打撲・捻挫・突き指	16	28	70	65	56	142	377	9	90	2	18		48	167	544
切傷・擦過傷・刺傷	18	42	65	59	123	220	527	17	71	2	20	1	56	167	694
眼の疾患	7	10	24	14	14	37	106	3	20	1	13		22	59	165
耳鼻の疾患	2	3	2	3	6	9	25	4	3				3	10	35
歯・口腔の疾患	24	12	74	68	20	39	237	8	8		3		17	36	273
皮膚の疾患	6	5	12	11	7	58	99	8	15		5		24	52	151
火傷			3	3	12	9	27	1	5			2	8	16	43
貧血		1		2	2	6	11		3				3	6	17
健康相談	6	10	28	14	7	32	97	6	19		9		17	51	148
その他	9	7	13	5	16	12	62	6	17		8		19	50	112
休養		2	2	1	6	5	16	2	8		2	1	8	21	37
検血	10	7	34	14	105	28	198	4	13	2	7	1	8	35	233
検査	1		6	2	43	5	57		4		2	2	3	11	68
病院紹介	9	18	41	31	19	76	194	13	40		10		35	98	292
合 計	187	209	683	513	682	893	3,167	106	374	8	120	11	362	981	4,148

在籍学生数 5,172名 (男 3,656名, 女 1,516名)

(2) 学生相談関係来談者数

	相談件数	相談延人数
修学上に関するもの	22件	104人
精神衛生に関するもの	42	97
栄養相談	114	119
その他	37	45
合計	215	365

(注) その他に医学相談，課外活動関係

~~~~~ 学園ニュース編集委員 ~~~~~

|      |       |     |       |
|------|-------|-----|-------|
| 学生部長 | 本田 弘  | 理学部 | 松本 賢一 |
| 人文学部 | 山口 幸祐 | “   | 広岡 公夫 |
| “    | 服部 良久 | 工学部 | 多々 静夫 |
| 教育学部 | 佐々木 浩 | “   | 杉本 益規 |
| “    | 山本 都久 | 教養部 | 高安 和子 |
| 経済学部 | 正亀 芳造 | “   | 山本 孝一 |
| “    | 中藤 康俊 |     |       |

